

山ぼうし

第11号 平成18年 2月28日 発行

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、

花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし

の碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。



新しい時代に生きる卒業生へ

校長 及川 敏 昭

陽さしがすっかり明るくなり、新しい春の訪れが感じられるようになりました。

さて、125名の卒業生の皆さん卒業おめでとう。3年間の高校生活を終えて皆さんはそれぞれの人生に向かって旅立っていきます。3年間という時の流れを振り返った時、皆さんの心の中はきっと充実した毎日を送ることが出来たというすがすがしい満足感で一杯だろうと思います。

卒業は人生の大事な転機のひとつであり、学校という港から新たな人生航路への旅立ちでもあります。知識や学力が大きな比重を占める学校生活とはちがい、実社会ではもっと総合的、そして全人格的なものが威力を發揮するものです。学業成績の余り振るわなかった者も、皆の陰に隠れて力を出し切れずにした者も、これからは新しいスタートラインにつくのだという気持ちと、「自分は伝統ある宮古工業高等学校を卒業したのだ」という自信と誇りを持って堂々と胸を張って力強く歩んでほしいものです。

学校を卒業してはじめて職業に就く時には、これから待っている未知の世界に対し、胸をおどらせる気持ちと同時に「果たしてうまくやっていけるだろうか。」という不安の気持ちがあると思いますが、このような感情は誰れしもが抱くものであり心配することはありません。

最初の勤務先をできるだけ自分一生の仕事と思い、これに一生懸命に打ち込み、そして絶えず努力し研究していこうとする心構えが大切だと思います。誠実に自分の職務を果た

す決意を是非持って下さい。

これからの人生をたくましく生きていくためには、健康は最高の宝です。特に学校生活から社会人になるこの節目の時期は生活の大きな転換期でもあります。自分自身の健康管理や心の衛生に十分注意することが必要です。

また、これから働く職場においては人とのつき合いや対人関係を大事にし、職場の上司や先輩達に可愛がられる職業人になってほしいと思います。そのことがまた仕事への活力と意欲にもつながっていくはずであります。

さらに、自分の夢や希望を実現するために、失敗を恐れず未知の分野に果敢に挑戦をして欲しいものです。たとえ実現する可能性が少なくても、夢や希望は人に生きがいを与え、人生を豊にしてくれます。何かあることを試み、そして失敗する人間のほうが、なにもしないで成功する人間よりどれだけ良いかわかりません。失敗を恐れず、失敗に学び、初心を貫くことが大切だと思っています。

今日活躍している大企業の創設者や各界の名人・達人たちは、失敗に学び、失敗をバネに个性的に生きてきた人達ばかりです。有名人だけではなく、我々の身近な人たちの中にもこのような生き方をしている人がたくさんいるはずですよ。

「初心忘るべからず」、勇気と喜びと感謝の気持ちを忘れず、若者らしく力強く未知の世界に力強く羽ばたいて欲しいと心から祈っております。

ゴールと駆け抜けろ

平成17年度3学年長 岩澤利治

4月最初の3学年集会で「進路決定という“目標”ではなく、“ゴール”を目指して頑張ってもらいたい」と言いました。これは、先日引退を表明した元シアトルマリナーズの長谷川滋利さんの著書にあった言葉です。それによると、「目標には達成度があるが、ゴールにそれはない。0%か100%のどちらかだ」というのです。これを自分

の進路決定に当てはめてみてはどうでしょう。こちら合格と不合格の2つしか無い。つまり3年生になったばかりの諸君には、自分に甘えずに、持てる力を振り絞って採用・合格を勝ち取る強い決意を持ってと言いたかったのです。そしてその通りに採用試験・入学試験を見事に突破してくれた諸君の頑張り、心から敬意を表します。本校での色々な経験が、これからの人生において大きな武器となることでしょう。卒業後も自らが設定したゴールを駆け抜けて下さい。支えてくれたすべての人への感謝の気持ちも忘れずに。

技術者であれ！

機械科3年担任 宇夫方 聡

卒業生諸君はこの3年間でものづくりを学んだ。「ものづくりは簡単だ。」と感じた人はいなかったと思う。寸法通りに出来ない、動かない、時間内で完成しない等、決して簡単な作業ではなかった。しかし、未完成のままにした人は一人もいなかったはずである。作り直したり、放課後残って作業し、全ての作品を全員が完成させた。

“Scientists are those people who solve the problems which they can solve, and engineers are the people who solve the problems which have to be solved.” (科学者は解ける問題を解き、技術者は解かなければならない問題を解く。)
「相対性理論」で有名な理論物理学者アルベルト・アインシュタインの言葉である。上手い出来ないことに挑戦し、努力し、完成させる。「ものづくり」の本当の楽しさ、おもしろさはここにある。

人生も然り。困難を乗り越えようとするから人間は努力し、成長する。だから、人生は楽しく、おもしろいのである。諸君はどんな困難な問題に直面しても、努力し、それを乗り越えるだけの力がある。宮古工業高校機械科で学んだ3年間を誇りに持って人生においても「技術者」であって欲しい。

Live a happy life!

電子機械科3年担任 佐藤かな子

5月8日、学校でみなさんと過ごした日数です。私にとって3年間担任を務めたのはあなたたちが初めてでした。注意したり言い争ったりして憂うつな思いをした日、どつしたらいいか分からなくて悩んだ日、一緒に笑い楽しい思いをした日、みなさんからの何気ないことばに勇気づけられた日…1日として同じ日はありませんでした。今思えば毎日がいい思い出となっています。

アメリカの人たちは、障害を持った人を「the challenged」と呼ぶそうです。これは「挑戦させられている人」という意味の造語です。彼らは『神様はその人に乗り越えられない試練は与えない』と考えるようです。私はいろいろな場面でこの考え方に助けられてきました。

これからそれぞれの道を歩んでいくこととなりますが、仕事のこると、人間関係のこすこととで大きな壁にぶち当たることが多いはずですが、それと向き合っていく人は「何でも自分ですっかり…」と悩み落ち込むものです。悩んでも前には進めません。「自分が成長するチャンスだ」と考え、思いっきり突進してみましょう。自分の人生です。自分の道を自分で切り開き、楽しい人生を送ってください。

大空と大地の中で

電気科3年担任 中村欣也

卒業おめでとう！宮古工業高校での三年間どうでしたか？いろいろな学習や経験、チャレンジで学びとったものを四月から社会で道具として使っていくこととなります。一人一人の高校時代の思い出を胸に、今回、とてもすばらしい曲を送ります。

『果てしない大空と広い大地のその中で
いつの日か幸せを自分の腕でつかむよう
歩きたそう明日の日に振り返るにはまだ若い
吹きすさぶ北風にとばされぬようとはぬよう
こごえた両手に息を吹きかけて
しばれた体をあたためて
生きる事がつらいとか苦しいだとかいう前に
野に育つ花ならば力の限り生きてやれ・・・
こごえた両手に息を吹きかけてしばれた体を
あたためて 果てしない大空と広い大地のその
中でいつの日か幸せを自分の腕でつかむよう
自分の腕でつかむよう。』

贈る言葉

設備工業科3年担任 村上和隆

卒業この2年間、担任として、一人の大人として伝えたかったこと。「時と場所を考えろ」「筋の通らないことをするな」「身なりを正せ」。私自身が高校の頃に口うるさく言われ、社会人になりようやくその意味が分かった言葉です。口うるさく言われた言葉を数年後思い返せばいろいろな捉え方ができると思います。ニュースでもよく流れる成人式の席で「時と場所を考える」事ができない姿は、みっともなく情けないとしか映らない。「筋の通らない事」をやり、社会・家族に迷惑をかける。入社試験・出社の時になぜ「身なりを正す」のか。そして、もう一つ。「親を大切に」してください。感謝の気持ちを忘れるな。自分だけで成長は決してできない。生命を生んでくれ、暖かい愛情で常に見守ってくれた人たちがいるということを決して忘れないでください。

これからの人生、光り輝いてください。卒業本当におめでとうございます。

3月行事予定

3月 1日 卒業式
3月7・8日 高校入試
3月15日 合格発表
3月23日 終業式・離任式
(3月7日～22日まで自宅学習)

